

梅薫る松山神社と昭和のなごりをたどる ~瑞光・小松~

神崎川

古くは淀川との分岐点の江口や吹田を河港として、水運で栄えた。明治11年(1878)に、淀川から安威川までを直線に結ぶ付替工事が行われ、川沿いには水利を生かして工場が立ち並んだ。平成に入り工場は閉鎖され、大規模集合住宅へと街の姿は大きく変わった。

小松公園(涙池)

源平合戦のころ、源氏の眼をのがれて当地に住む叔父を尋ねて来た平景清は誤って叔父を殺してしまった。そしてここにあった池で涙ながらに血刃を洗ったと伝える。この池のあとが当公園で、大きな区画整理の記念碑が最近まで立っていた。

上中島土地区画整理

小松は江戸時代初期に開墾され、綿花の生産が盛な農村であったが、昭和4年(1929)~9年(1934)の区画整理によりまちが整備され工業地・住宅地へと一変した。一方、島頭町や向稱寺、瑞松寺、専念寺の付近は区画整理の範囲外となり、古い街並みも残っている。

瑞光寺・鯨橋

聖徳太子創建と伝える。寛永20年(1643)僧天然が指月寺として復興、享保14年(1729)現在の寺名になった。鯨橋は、潭住和尚が和歌山県太地浦で不漁をあわれみ豊漁祈願をしたところ鯨がたくさんとれたので、その骨で橋をつくり冥福を祈った。現在のものは平成18年(2006)月に架けられた。

★印のあたりに

江口(日活)、小松(東映)、新庄(大映)の3つの映画館があった。(1960年ごろ)



晒染工業

江戸時代より栄えていた綿花の生産から、綿花の加工が始まり、水利を活かした晒や染色工業が神崎川沿いに発展した。戦時中は軍需工場にもなり、最盛期にはこの地域に3~40軒ほどの工場があったが、現在は山田晒染工業1件のみになってしまった。

松山神社・松山公園

延喜元年(901)菅原道真は太宰府へ配流の途次、数千株の小松が茂る中島の景観に感動「小松の詩」を詠まれたという。菅公没後村民は社を建立し、小松の天満宮と称した。明治42年(1909)には大隅神社に合祀されるが、村民の熱意により昭和19年(1944)に建替えられた四條禰神社の部材で現在の社殿が建てられ再興し、長老が宮司を務めるなど住民によって守られてきた。毎年2月下旬から3月中旬までの間、梅まつりが開催され、早乙女による献供行列も行われる。

専念寺

創建寛永20年(1643)。本尊阿彌陀如来は恵心僧部作。ほかに聖徳太子、伝教大師作と伝える仏像がある。当地は江戸時代綿作が盛んで、豪農も育ったが、そのうち屏風屋勘左衛門一家の衰頹が伝わり、夫妻の像も安置されている。

瑞松寺

浄土真宗本願寺派。明道和尚の開基(楠木正成の末えいといわれる)。山号の涙池山は平景清があやまって伯父を殺した血刃を洗った池からくる。寺は宝暦9年(1759)再建。この寺では昭和初期まで、全国的に名の知れた狸の吸出し薬を売っていた。江戸時代、村人に追われた狸がこの寺に逃げ込んできたのを住職が匿ったところ、お礼にと皮膚病を治す薬の処方方を教えられたという言い伝えがある。